myuzの三題噺「黒砂糖」「甘酒」「フレンチ」

myuz

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ｍｙｕｚの三題噺「黒砂糖」「甘酒」「フレンチ」

【Ｎコード】

Ｎ７７９７Ｓ

【作者名】

ｍｙｕｚ

【あらすじ】

黒砂糖と甘酒とフレンチなお話。

（前書き）

友人と「同じお題で書いてみよう」と言う事で書いてみた三題噺。
暇つぶしにどうぞ。

６／１８追記
友人のものがＵＰされました！よければどうぞ。
後書きにＵＲＬがあります。

目の前を黒砂糖が横切った。
どうやら先回りされていたようだ。

「くそったれ！」
俺は悪態をついてフォークを投げる。それは、幾つかの飛んでくる黒砂糖を相殺して
カラン。と地面に落ちる。

「やるじゃないか。才能は惜しいが、我々の脅威となる前に潰させてもらおう。」
黒砂糖を飛ばしてきたのはこいつだ。格好付けながら黒砂糖を構える姿はシュールだが、
実際に強いからツッコミ様が無い。くそっ、なんで俺がこんな目に・・・

―事の始まりは昨日だった。

―国全体で、アンケートが取られたあの時。

「アンケートを前に出したやつからかえっていいぞー。」

「国内最強料理決戦派閥アンケート・・・これ、なんだ？健太。」
「そうそう。このアンケートに好きな料理とか書くんだって。」
「意味が分からない・・・。」

その時俺は、その朝に食べたフレンチトーストを思い出して、「フ

レンチ」と書いた。
「なんだよお前、フレンチって。格好付けてんじゃねーよ、俺なんか納豆ってかいたぜ？」
親友の健太と一緒に笑いながら、アンケートを先生に提出して、帰った。
今思えば、ここまではまだ、普通だったのかもしれない。

次の日、俺は普段どおり登校した。そして自分の目を疑った。
教室には、健太がたっていた。納豆と箸を持って、一人だけ。

―そして、周りには、クラスメイト達の死体が散らばっていた。

「健太、これ・・・！？」
「黙れ、『フレンチ党』。俺の前に・・・『和食連合』の前に立つなら、
親友のお前でも容赦はしないっ！」
「なんなんだよっ！？」

それからは俺はとにかく逃げた。そして住宅街へと逃げ込んだ。
今、目の前に居る黒砂糖男とは、この時出会ったんだ。

住宅街にも、死体は散らばっていた。
「一体何が起きてるんだよっ！？」
「戦争・・・だよ。・・・私は『和食連合』の霧野だ。」

声がした。その方向を向いたら、女性が立っていた。
女性の手には、甘酒の紙パック。何故そんな物をもっているのか。
違和感を感じて、自分の手元をみてみた。
そこには、いつの間にかナイフとフォークが握られていた。

「なんだよこれっ！おいアンタ、何が起きて―
「さようなら、少年。いつか地獄で会おう。」
女性が紙パックを傾けると、中から甘酒が出てくる。

そしてそれは、空気に触れると、発火した。
火炎の奔流が襲ってくる。
「だから、なんなんだよっ！？」
とっさに手を交差させ、顔を守った。
しかし、その炎が俺に届くことはなかった。

目を向けてみると、人間サイズの巨大なフレンチトーストが、壁となり、炎を防いでいた。
トーストが倒れ、視界が開ける。
先ほどの女性は驚いた目でこちらを見ていた。

「まさか防ぐとはね・・・私も本気で―」
その瞬間。女性の左胸を、何かが貫いた。
「かはっ・・・！？」
バタン。と、女性が崩れ落ちる。その目からは光が失われていた。
「あぁもう！一体何が起きてるんだよ！？！？」
とりあえず俺は、女性の心臓を貫いたのは何か、確かめてみた。
それは、血まみれの黒砂糖だった。そして俺の頬をかすめて、何かが横切った。

結局それも、黒砂糖だったんだ。
黒砂糖での狙撃は、数十分も続いた。

俺は何もできなくて、ただひたすら逃げ回った。
でも、それも終わりみたいだな。
目の前には、男が無数の黒砂糖を原理不明の力で浮かせている。
あれを撃ってきたら。間違いなく・・・死ぬ。

なんでこんないきなり。
なんでこんなやつに。
死にたくない。死にたくない。怖い。怖い。怖い。怖い。
「さらばだ。」
「くるなぁぁぁぁぁぁっ！！！！！」
突然男を包むように6枚のフレンチトーストが出現する。
「うあぁぁぁぁぁぁあああっ！」
だが俺は、そんな奇跡に驚く余裕もなく、
本能的に、右手のナイフを振るった。

フレンチトーストは、半分に裂けた。

オレは、トーストにつつまれた、人間の分断された下半身を見つめた。
「そうか。みんな、コウしちゃえばいいんだ。そうだ。そうしたら、何も怖くない。」
何故気づかなかったんだろうか。健太だってそうしていたじゃないか。
皆消シちゃえ。何もイラナイ。全部壊シちゃえ。皆無クシちゃえ、
そしたラ、
何も怖くない。何も怖くないんだ。何も怖くない。何も怖くない。
何も怖くない。何も怖くない。何も怖くない。何も怖くない。・・・

「という夢をみたのさ！健太！」
「お前怖ぇよ！！！！！ちょっ、こっち来んなし！」
ちゃんちゃん。

（後書き）

昔書いた物をそのまま持ってきたのですが、今見ても酷い。
でも後悔はしていない。反省も。

友人の三題噺　黒砂糖　甘酒　フレンチ　はこちら
ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ１５３６ｕ／

オマケ・これを書いた時に書いたあとがき

収集が付かなくなりました。
えっと・・・ハッピーエンド・・・なのかな？
終わりよければすべてよしだよねっ！
夢オチっていいのかどうかは知らないけど。

フレンチってなにさ。フランス料理なんてしらんがな。
あと甘酒も。甘酒ってなにさ。
え？ｇｇｒｋｓ？だが断る。
というノリで書いたらこうなった。もう三題噺なんてやりたくないね！やるけどさ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7797s/

myuzの三題噺「黒砂糖」「甘酒」「フレンチ」

2011年10月8日10時30分発行